



# 山科朝則県政報告 Vol.9

発行日／平成27年春 発行／山科朝則事務所

山科朝則事務所 〒996-0033 新庄市下金沢町4番20号 TEL.0233-25-8778 FAX.0233-25-8777

## ふるさと再生 さらに前進!



# 2015 Action!

### ごあいさつ

皆様には日頃より多くのご意見を賜り感謝申し上げます。  
 今年度最後の議会が終了し、平成27年度予算が決定いたしました。前号でもお伝えしましたが、新庄病院の機能強化と全面建て替えに向けた検討委員会の設置、農業用水を利用した流雪溝導水事業等が正式に決定いたしました。  
 さらに、農業大学校に林業関係学科が新たに設けられることとなりそのための調査費も予算化されました。  
 働く場、学ぶ場、暮らしやすい環境づくりは一步ずつ着実に前進しています。多くの予算を新庄最上地域に獲得し、県内4地域の格差を是正するために任期満了まで努めて参ります。4年間の皆様からのご意見、ご指導に改めて感謝申し上げます。

山形県議会議員 **山科 朝則**

皆様のご意見をお寄せください。

山科とものりホームページ <http://www.yamashina.jp/>

※この県政報告誌は、県議会議員に交付される政務活動費を活用し、作成しております。

## 最上総合支庁 平成27年度当初予算の概要

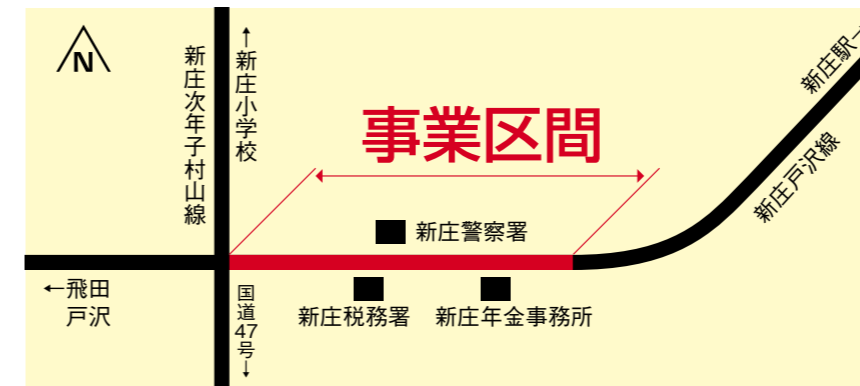
予算規模 456,686千円

### 最上地域の発展方向

森と里山の文化が息づく暮らしの豊かさと  
 厚みのある産業が織り成すエコポリス「最上」の創造

### 新庄都市計画道路北本町飛田線街路整備事業 新庄警察署前道路拡幅に着手

平成27年度から着工し、交通の円滑化を図り、安全安心かつ快適な歩行空間を確保するものです。



### 最上の高校生人材地域定着促進事業

若者の地元定着と人材不足の解消を図ることを目的に、高校2年生と保護者に対して、最上地域の企業や職業理解を深めてもらうものです。  
 ●職場見学バスツアーの開催  
 ●職業選択肢を増やすための説明会の開催



※この県政報告誌は、県議会議員に交付される政務活動費を活用し、作成しております。

### 医師公舎のあり方について

**病院事業管理者** 病院に勤務する医師の安定的な確保を図るためには、住環境の整備は大変重要であると考えている。

新庄病院においては、23年度に完成した新公舎や病院に比較的近接した公舎の入居率が高いもののそれ以外の公舎については入居率が著しく低い状況となっている。

このため、27年度当初予算では新庄病院の医師公舎として民間住宅を一部借り上げる経費約1,400万円を計上するとともに、一部公舎の老朽化や建物にかかる維持管理経費などの課題もあることから、「医師公舎のあり方検討事業」の実施を計画している。

この事業では、二つ目として、今後公舎整備を進めるうえで、医師をはじめとした医療関係者のニーズを的確に捉えるとともに、住環境の整備による医師確保等の効果を検証していく。

二つ目は、中長期的な観点から「病院事業での建設や「民間住宅の借り上げ」など多様な整備のありかたについて検討していく。

この検討結果を踏まえ、研修医を含む医師の確保に向け病院経営への影響にも十分配慮しながら住環境の整備を進めていく。

医師公舎については建てるのが難しくれば民間から借り上げればよいと考えていた。前向きな答弁がいただけず、医療人材確保のために環境整備は必要だ。また、医師公舎だけでなく県職員の公舎も借上げできないかと考えている。(山科)

### 山形大学医学部医学科における「地域枠」創設への対応について

**教育長** 県内における医師の確保は県教育委員会としても重要な課題であると認識しており、これまでも、医師を志す生徒の学力向上を中心に取り組んできた。

医学部医学科への進学者数は、県内の現役生で毎年20名前後と十分ではない。27年度入試から「地域枠」が創設されたので「地域枠」の活用を通じ山形大学への進学者数を増やしていきたいという一層努力する。

そのため、来年度は新たに山形大学志望する高校2、3年生を対象に、山形で医師として働く意義を学び、生徒が主体的に地域医療等に関する課題研究を進めていく事業の実施を予定している。「地域枠」の場合、面接試験もあるので山形の医師を中心に山形で学ぶ魅力や医師としての心構えを語っていただき、その意義を生徒自身が実感し深めるようなワークショップを行うことで、生徒が明確な志望理由をもつことができるように支援していく。

当然のことながら、医学科進学に必要な学力を養成していくことは重要であり、志望する高校1年生から3年生を学年ごと県内一か所に集め、生徒がお互いに切磋琢磨しながら学力を向上させるためのセミナーについても継続実施していく。

このような取り組みをとおして、「地域枠」も活用しながら本県で働く医師の確保について県教育委員会としても一翼を担うよう努める。

「地域枠」の創設に関しては、知事はじめ執行部の皆さんが山大との調整に大変ご難儀されたと聞いている。県内出身者で山大に入学者が10、15パーセントということで、なかなか地元の人が入れない。レベルが高いことは喜ばしいが、地元で養成し地元で働くのが一番の理想形だ。  
 一般家庭の志をもった子どもでも最上地域で教育を受けて頑張れば山形大学部に入れるという希望がもてたり、地域としても医師を養成するための教育が高校段階できたりするというのが嬉しいことである。しっかりと取り組みを進めてほしい。(山科)